

新発見の遍路日記「四国順拝みちの日記」

胡 光（愛媛大学法文学部教授）

The Shikoku pilgrimage diary discovered in 2020

Hikaru EBESU

Professor, Faculty of Law and Letters, Ehime University

1 史料解題

江戸時代の旅人が記した旅日記・紀行文や、旅人を誘う案内記を「道中記」と言い、四国遍路の日記を「遍路日記」と呼ぶことにする。かつて、熊野古道の世界遺産化調査に関わり、全国の道中記を収集した三重大学・塚本明氏は、260点の「道中記」のうち、四国遍路は6点であったことを紹介した。四国遍路も世界遺産登録推進のなかで研究が進み、徳島県立博物館の松永友和氏はこれまでの研究を総括し、本誌上で53点の「遍路日記」を紹介している。筆者も、これまでに九州で初めて発見された「遍路日記」、愛媛県最古の「遍路日記」、小豆島の「遍路日記」を紹介してきた。これらの「遍路日記」は、旧家や廃寺に伝わっていたものが、地元の公共機関で保管されているものである。

本稿で紹介するのは、2020年6月ヤフー・オークションに出品され、四国遍路・世界の巡礼研究センターにおいて落札した「遍路日記」である。近年、ネット・オークションで多数の古文書や歴史資料が売買されている。2018年の西日本豪雨後には、愛媛県宇和島市周辺から流出したと思われる文書群がヤフー・オークションに出され、愛媛資料ネットで落札したことがある。公共の博物館などでは、ネット・オークションに参加することは難しいため、オークションに出た地域資料の保全は、新しい課題と言える。こうして入手した新発見史料を良好に保存し、その内容をいち早く紹介することは入手者の責務でもある。

さて、本書は28丁の縦帳で、表紙に「四国順拝みちの記」と記される。巻末に「伊勢屋吉兵衛事、心應道習法子」とあり、京都から一人出立していることから、作者は京都の商人で、仏教を篤く信仰した人物で、隠居している可能性も考えられる。文化2年(1805)8月3日から、閏8月を経て9月10日まで、66日間の旅の記録である。19世紀前半は、松永氏の紹介でも「遍路日記」が多い時期であり、筆者の太山寺落書調査においてもその数が集中しており、江戸時代において遍路数がピークに達する時期である。

「道中記」は、後人の旅の指標とするため、地名・距離・難所などが記された単調な記述のものが多くとされる。本書の記述の大半は、その例にもれず、これらに堂宇と本尊の紹介、山道・野道など道種、宿泊先が定型として加わる。ただし、部分的に詳しい記述や和歌が添えられ、作者の心情と教養を知ることができる場面があり、他書と異なる特徴を指摘することもできる。それらを簡単に紹介してみよう。

京都の伊勢屋吉兵衛は、まず仁和寺・東寺という真言宗寺院に納経することから始まるが、この2寺に札番号が付いていることが注目される。伏見から船で大坂に向かうと、大きな金毘羅宿も現れ、金毘羅参詣の隆盛を知る。淀屋橋筋大川町塩屋権七宅で往復運賃と食事代を支払い、大坂見物後、六日に出帆する。船宿の記述は特徴のひとつで、丸亀航路の客を確保しようとする船宿の姿が記録される。十日朝、丸亀に上陸すると、船宿鳴屋武左衛門宅に入る。大手門前で有名な塩飽屋の庭を見物し、宿の案内で役人のところへ行き、丁銀105文を渡して手形を受ける。上陸手続きが記されるのは珍しい。翌日、七十八番札所道場寺（郷照寺・香川県宇多津町）を札初めに東へ向かい、東讃、阿波、土佐、伊予、西讃と回り、9月5日に七十七番道隆寺（同県多度津町）で「目出度、廻り納申候」と結願する。

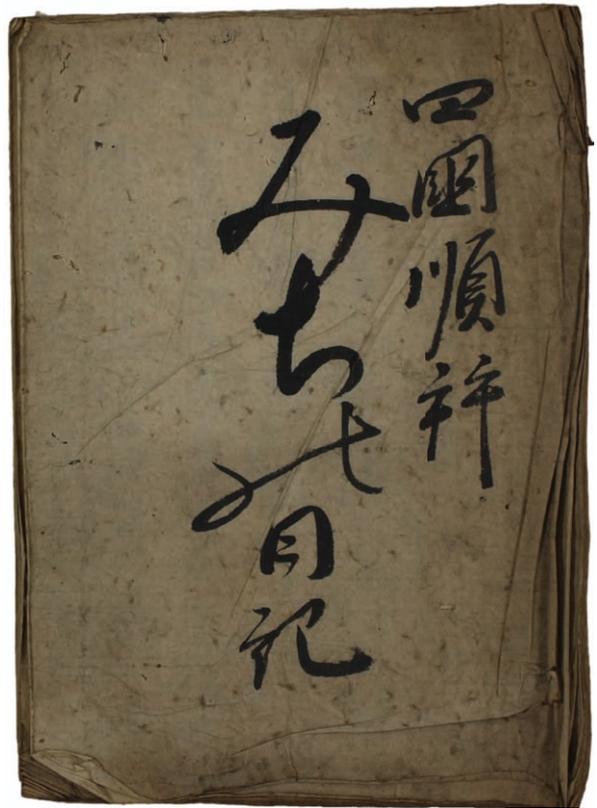
途上の記述で特徴的なのは、番所の記載である。讃岐・阿波国境に番所の記載はない。次の阿波・土佐国境では、牟岐に阿波番所、甲浦に土佐番所が記録され、入口は大矢来、前は海、後は山と土佐の厳しい改めが想像される。土佐・伊予国境は山中にあり、双方の番所が記録されている。大洲城下町入口にも番所がある。伊予・讃岐国境の記述はない。

次の特徴は、札所以外の寺社参詣の記述である。国別にその箇所を紹介しよう（京・大坂は除く）。〈讃岐〉法然寺、洲崎寺、白鳥大神宮、金毘羅大権現 〈阿波〉大麻比古神社、童学寺 〈土佐〉神峯大神宮

(神峯寺と一体)、真念庵、月山〈伊予〉篠山、和霊大明神、衛門三郎墓所(文殊院)、三島大明神(五十五番札所)、桑村地藏堂、生木地藏、仙龍寺〈安芸〉宮島

特筆すべきは、堀江村(松山市)から船に乗り、巖島神社と大山祇神社に参詣していることである。四国と宮島・錦帯橋を描く引札の存在から、その観光的ルートは知られていたが、実行している日記が現れた。さらに、五十五番札所別宮は、本来の札所であった大山祇神社を遥拝するために今治湊附近に作られたとされてはいたが、実際に大山祇神社を札所として参る者がいて、当社でも納経(御朱印)できたことが分かる重要な記事である。また、旧稿で、六十五番三角寺奥院の仙龍寺は女人高野として知られ、全ての遍路が訪れ、山中ゆえに700人以上が寺内で宿泊していた様子を述べたことがある。本書では、寺に泊らず、山中で宿を探し見つけたところ、女房が貸してくれず、悪女と評し、夜道を一人で難儀した旨が語られる。

最後の特徴は、詠歌の記述である。旅人の教養と感動の有様を知ることができる箇所である。その和歌は、難波、明石、大窪寺、太龍寺道、東寺道(室戸岬)、金剛福寺(足摺岬)2首、大宝寺道、音戸瀬、大山祇神社における10首であった。



「四国順拝みちの日記」表紙

2 史料紹介

(表紙)「四国順拝 みちの日記」

文化元年乙丑八月三日、住宅出立、四国八十八ヶ所為巡拝

京都壱番仁和寺御室御所納経、同式番東寺執行納経受申事、是乃伏見のりば着、夜船にて大坂八軒家着、此辺ニ金比羅宿大御座候、淀屋橋筋大川町塩屋権七殿方、是乃さぬき丸亀迄船ちん飯代とも銀九匁、又下向代銀同断、かり切銀別式十匁定なり、四日、南御堂、いなり、座摩大社御霊、此宮やけ、かり宮也、是乃御城、天満天神参詣仕候、夕方船ニのり、五日、淀屋橋ニいたりて夜入、みなと橋いたりて、六日、阿弥陀池辺、天神之御斎行所参詣、此所砂もり始り申候、是乃船にもとり、たいくつのをりから、

なにわつに かかる船人 かちをたゑ

出ふねおまつハ 丸亀のさと

夜半比々川口へ出船、八日七ツ時、明石ニかかる事、

西方へ 月もろともに 行船の

明石のうらて しほにせかるる

八日、明石出船、高さしにかゝり、又一ノ宮ニかゝる、波風あらくなんき成事甚敷、夜入出船、九日、明方に、あこの城前をとをり申候、小豆嶋、八粟八嶋見ゆる、七ツ半時合しほまち、夜半時合出せん、十日朝、やくり、やしま見て通り申候、八ツ時丸亀着、宿嶋屋武左衛門殿宅へ向ニ御城見る、山城にて見事也、大手口に塩飽屋と申候人家の庭ニ泉水、とひ石、向ニ大キ成そてつかつを申し、宜敷松有、住宅庭宜敷事也、又宿安内にて役人宅江往來受ニ行事、丁銭百五文渡申候、宿百六拾文外ニ七十五文渡申候、是ハ下向時渡し船ちん也、十一日、始メ七十八番、讃岐道場寺(傍注)「どうぜうじ」参申候、本尊阿弥陀如来

(頭注)「七十九番迄壱里半」七十九番、崇徳院(傍注)「しゆとくみん」、崇徳天王様宮有、大師堂、観音堂有、是乃登道也、外、遍照院ニ参り、此寺ニ聞持石有、大キサ七尺計丸石、八角玉垣(傍注)「かきの」内有、

(頭注)「壱里半」八十一番、白峯寺(傍注)「しろみね」、正明寺ト申候大寺にて山なり、崇徳天皇様玉屋

文化元年乙丑八月三日任宅出立
 四国八十八ヶ所為順并
 京都を番仁和寺御宗御所納経
 口山著田東寺執行御納経
 是々依是のりを志納経をち後八
 州家平の道に全に在るるに
 位を極め大川町極を極て又方是

又河内郡所り切振石中々定あり
 男多由堂のあり在摩子社所共
 交河内切り交は是方御成より後方仲
 東法は又右所せり方御橋區かより
 新入ふると橋より河内陀地邊
 云作し水多し水多法は砂をり
 是方御とより多し方御を
 ちよりわたり所人よりを
 おまのふり河内九龍のさ
 新津比川口にお新八ヶ高時明在御
 御方一月ももみ所の明ありて
 三月にせあり
 八ヶ高在お新より一り又一、交はる
 御橋よりくある御り交は新入お新
 九ヶ高の所り新橋をよりし山邊

「四国順拝みちの日記」冒頭部分

有、よりととも石とう、外二石とう四つ五つも有、ちこのたき有、

(頭注)「五十丁」八十番、國分寺、千手堂宜敷寺地なり、

(頭注)「五十丁」八十二番、根香寺(傍注)「ねごろじ」、本尊、観音、此所ニ一宿、大山寺なり、十二日、

(頭注)「式里半」八十三番、讃岐一之宮、正一位、田村太社、正観世音、

(頭注)「半り」外、佛生山法然寺、表門入、十王有、松はやし、両わき池也、二ノ門、二王有、三ノ門、四天王有、四ノ門、二尊仏有、石段、五ノ門、観音有、本堂に参、尊佛、常念佛、方丈、臺所、大キニして、

(頭注)「三り」十三日、高松城下参申候、山城にて景色よし、

(頭注)「壺里」八十四番、八嶋寺、山道十八丁有、石段有、門二王、石段、門、四天王、本堂大也、かき二ツ有、廣大智慧観、

遍照金剛、三密行所、當都率天、内院宮、門、本當大師一夜こんりう、此山折こし下り三十丁、継信つか有、此辺たんの浦、はまつたい、外、すさき寺参り申候、正観世音、小寺なり、

(頭注)「一り」八十五番、五釵山八栗寺(傍注)「やくりじ」、聖観世音、高山也、上ニ平壺丁半程有、門又壺丁程行て本堂、垣ハ大石也、此石ニ五りんほり付有事めすらし、つゞいては岩石大キ成事おそろしき事、此上ニ五釵岩有、

(頭注)「一り半」八十六番、志度寺、十一面観世音作仏なり、在町にて宜敷大寺にて本堂大キ、門前五兵衛殿一宿、十五日、

(頭注)「壺り」八十七番、長(抹消)「中」尾寺、聖観世音、

(頭注)「四り」八十八番、大窪寺(傍注)「おゝくぼじ」高山にておくのいんあり、大師香水、仙人のせりわり石、其外品かす有、

大くぼの あらおそろしや おくのいん

岩山かけて そのかいもなし

(頭注)「五り」十六日、白鳥(傍注)「しろとり」大神宮参詣、表金狛いぬ有、石とうろう、石ノ鳥井、石ノ狛犬有、御宮殿大也、十七日、山坂なん所越、(頭注)「四り」阿波国一ノ宮参詣、納経處、正一位太麻彦神社、靈山密寺、

(頭注)「一り」四国第一番靈山寺、釈迦如来、是分なるとへ式里、

(頭注)「十丁」二番、極楽寺、阿弥陀如来、

(頭注)「二十五丁」三番、金泉寺、釈迦如来、八十九代龜山法皇様の御廟所有、是分壺里半山坂有、

(頭注)「一り」四番、大日寺、大日如来、山道なん所越

(頭注)「□□」五番、地藏寺、地藏菩薩、大地にて大寺なり、五百らかん有、十八日

(頭注)「一り」六番、安楽寺、薬師如来、美礼にて宜敷所平地也、立石ノそんそう、山道なり、

(頭注)「一り」七番、十楽寺、阿弥陀如来、登道四十丁

(頭注)「一り」八番、熊谷寺(傍注)「くまたにし」、千手観世音、山すそにて石段大ク有、堂とう、方丈大キ也、宜敷寺地也、

(頭注)「十八丁」九番、法輪寺(傍注)「ほうりんし」、涅槃之釈迦、寺内小にて本堂吉、是分登道、坂少有、廿五丁、

(頭注)「廿五丁」十番、切幡寺(傍注)「きりはたし」、千手観世音、本堂、大師一夜こんりう、門ハ山にて石段、式丁計有、是分一里半野道、吉野川、此川、三ツ又、二ノ水にて渡代、四文、三文、五文、三ヶ所拂申候、

(頭注)「一り半」十一番、藤井寺、薬師如来、小寺にて、不宜敷、是分三里山坂なん所也、此所岩色青、生ふしのくだけしと也、山打こして谷へ下り、十八丁又のほり有申候、十九日、

(頭注)「三り」十二番、焼山寺(傍注)「せうさんし」、虚(空)蔵堂、中位の寺也、是分一宮へも行申候ミち有、十一番戻り、此所にて一宿、廿日、野道、山へり三里、童覚寺参申候、又野みち、小坂川有、小山林ニ、

(頭注)「四り半」十三番、一ノ宮大明神、大日寺、大日如来、

(頭注)「十八丁」十四番、常楽寺、弥勒大菩薩、方丈ノ後ハ山にて、本堂有、其後ニ子安観音有、

(頭注)「五丁」、十五番、国分寺、薬師如来、

(頭注)「十八丁」十六番、観音寺、千手観音、

(頭注)「十八丁」廿七番、妙照寺(傍注)「めうしようし」、三仏薬師如来、本堂宜敷大キ成、是は城下辺之
大くわんにて嶋田村治吉殿ニ一宿、

(頭注)「□り」廿一日、徳しま御城下参申候、松平阿波守様、是は野道川大ク有、小山少々有、

(頭注)「三り」十八番、恩山寺(傍注)「おんさんし」薬師如来、大地にて宜敷、

(頭注)「三り」十九番、立絵寺事、紫雲山地蔵寺、本尊地蔵菩薩、金泥大曼陀羅にて、あらたなる事大申
候、是は野山道川越、横瀬村ニ一宿、廿二日、川へり山道なん所

(頭注)「弍り」十九番立江寺奥院(傍注)「おくのいん」地蔵堂、大山をのほる道に影向瀧有、山の上ニゆる
るき石、来光ふとう大師の作、一しん文字、大師腰かけ石、三そんのみた、上りにやうまきてんかい、ふと
う石、ひしやもん石、安さんいし、下にたいないくゝり、若はた、かけはた、ほしかい石、くわんしやう
水、むかうむきみた、ふけんほさつ、廿二日、四ツ時少々らい、九ツ時雨ふり、らい、夜入、段々らい
雨つよく

(頭注)「二り半」二十番、鶴林寺(傍注)「くわくりんじ」、地蔵菩薩、山十八丁、大寺也、本堂吉、大師、
石たん長シ、高山にて景色よし、今日、雨天にて、きり込見へず、大井村又二郎殿一宿、廿三日、五丁行、
渡場、高水にて、船出不申候、山道、川へり三十丁廻り、荷舟ニのり渡り、せんこんにて銭いらす、又、山
ニかゝり、なん所也、五十丁程行、

あわしなる あせかきながら こゆる山

すすしく渡る 川ニせかるゝ

(頭注)「一り半」廿一番、大龍寺、虚空蔵、女高野也、大師、七才の廿一才迄、主たまう所にて堂吉、大
寺、大山也、當山三丁(傍注)「三十丁」程下り、龍の岩屋有、本尊、黄金不動明王、天がい、まんだら、
たこのこうろう、ふしの山、大師座せんだん、亀龍の鱗跡有、同かしら、ふしの人ある、ほらかい、たいこ
石、此外ニもれたる品ハ御免、此安内、廿四文ツゝ、是は十八丁下り、あせひ村に一宿、廿四日

(頭注)「二り」廿二番、白水山平等寺、薬師如来、是はなん所、山道、濱邊、五山ニかゝり申候、大海見渡
し、景色宜敷所、是はきた浦、又山坂有、ひわさ浦、さぬき屋佐助殿、一宿、廿五日

(頭注)「五り」廿三番、薬王寺、薬師如来、山すそ大地、堂宜敷、山川大キ事、坂濱大キ事、浅川村甚助
殿、一宿、廿六日、

(頭注)「番所迄十り」山坂有、阿波番所有、むきト申候所、又かきの浦ト申候所ニ土佐番所有、此所改所入
口ハ大屋らい、前ハ入海、後ハ山、往来受申候、山ニかゝり、大なん所、七廻(傍注)「まかり」也、

(頭注)「番所ハ東寺迄十一り」野根浦、角屋権七殿、一宿、廿七日、又、番所有、小坂越、ごろ〜百丁、
是ハ三、四寸計、丸石計也

ごろ〜と きゝしにまさる

いしはらて へんろの足を こゝではね石

廿四番、東寺事、御崎寺、虚(空)蔵、本堂、谷、女人きんせい、女人札所、下ニ有申候、後ハ山也、しい
な村、寿吉殿、一宿、此間六里、大なん所、廿八日、濱つたい小坂有、みさき大岩にて大なん所ニ大神宮、
熊野権現岩屋有、入口三間四方、おくへ五、七間程有、又、観音有、大師作、濱ハ向ニ足すり山見ゆる、つ
ほの浦、宜敷入江有、室津浦入江有

(頭注)「一り」廿五番、津寺事津照寺、地蔵菩薩、小寺山有、濱つたいに

(頭注)「六り」廿六番、西寺光明院、薬師如来、大師作、大山にて大なん所、大寺也、立物宜敷、女人きん
せい、札所下ニ有、廿九日、

(頭注)「三十丁」「三十丁」廿七番、神峯寺(傍注)「かうのみねてら」、十一面観世音、大山にてなん所此
山上ニ西岩屋有、十八丁東、太神宮有、廿弍丁有、山のふもとニ一宿、晦日、山坂濱大キ事、八坂八濱、き
し本浦一宿、閏八月朔日、

(頭注)「八り」廿八番、大日寺、大日如来、小山にて小地小寺なり、

(頭注)「二り」廿九番、国分寺、千手観世音、長宗かへ城山の跡有、野中なり、

(頭注)「一り半」三十番、一宮、加茂大明神、大社にて宜敷御座候、二日、高知城下

(頭注)「高知迄一り」三十一番、五臺山竹林寺(傍注)「ちくりんじ」、文殊堂、大地にて、寺吉、

(頭注)「二り半」三十二番、禅師峰寺(傍注)「ぜんじぶじ」、十一面観音、面白キ岩有、是は都市浦、はま

松はやしなり、入海有、渡三文、小坂あり、長宗かへ本城跡有、山なり野道、

(頭注)「二り」卅三番、雪蹊寺(傍注)「こうふくじ」、薬師如来、是の野道、川有、渡し有、一里半、

(頭注)「二り」三十四番、種間寺(傍注)「たねまし」、薬師如来、野道川有、渡し有、一宿、三日、

(頭注)「二り」三十五番、清瀧寺(傍注)「きよたきてら」、薬師如来、山寺なり、野道、山坂有、入海有、渡有、猪尻村、是の廿五丁山道

(頭注)「二り半」三十六番、青龍寺(傍注)「せいりうじ」、不動明王、本堂、大ニて吉、石だん大ク有、是の猪尻村戻り、新吉兵衛様、一宿、せんこん、四日、濱、山坂、濱つたい、野道、佛坂ト申し候長坂有、中程ニ不動明王有、大師作、かんとや坂、やけ坂、大なり、五日、みゝず坂と申候坂、少シ、原長シ、此間、三里、野道、川有、渡し有、

(頭注)「十三り」三十七番、五社神、同様之宮五ツ御座候、大師堂ハ下向ニ川渡り、山寺なり、山打こし、野道、二里程行、宗山村、一宿、六日、野道、山道、三里程行ハ在町、一丁程有是の坂濱々々々々々々々々、いた浦申候大浦にて、やかす有、松原有、野道、山道、とつか村に一宿、七日、野ミち、川はた、四万十川と申候大川也、渡し廿八文、高水になり、三四百文位成申候、山道長し(頭注)「十四り」、心念庵(傍注)「しんねんあん」是よりあしすり山へ七里、山坂濱なん所有、足摺山より月山へ九里、此所名所大しとうけたまわり申候、心念庵の山道濱邊いふり浦に菊(傍注)「きく」右衛門殿一宿、是より三里、八日、濱山みち、此取付岩の出はなより取付申候、保津浦と申候大村(抹消)「なり」有、くしら取所、山みち、

(頭注)「七り」三十八番、足摺山金剛福寺、千手観音、堂とう宮四ツ有、上ニ寺成、宜敷地面成、此所に名所七ツ有、向は大海なり、岩石がけ六七間計、此下に大成亀出つる事有、

手も足も すりて太能(傍注)「たの」むハ くわんせをん

おかめやをかめ くわんせをん 是ハ同行

足すり山 のほりてみれハ ろくじなり

みちの七里に のりをするかな

是の大木村万蔵殿一宿、九日、心念あん着、是の山坂有、山田村岩吉殿一宿、十日山道野道

(頭注)「十二り」三十九番、延光寺、薬師如来、

寺山ト申候、山中平地也、是の山道野道、土佐の番所有、高山有、山中ニ国境有、伊与ハ平山成、又番所あり、野山道大川こし、

(頭注)「七り」四十九番、観司在寺(傍注)「くわんしさいし」、薬師如来、山なし小寺也、上辺村吉左衛門殿一宿、(頭注)「十一り」十一日、野山此間十一里、ふもとを五十丁、大なん所にて、笹山参り申候、

観世音寺、十一面観世音、九州見へる所也、今ハくもり有、見へ不申候、此山上ニ三所権現宮有、此辺小笹原也、きりごみをそろしく、下向道四十丁、なん所、谷川有、ふもとに人家二軒有、此所一宿、名水にてふる有申候、

(頭注)「六り半」、十二日、山野道、川有、宇和嶋山城也、天子有、城下出、はなれに御国ミ社有、和霊(傍注)「われい」大明神、是のいなりへ二里半、野山有、ふもとに一宿、十三日、

(頭注)「二り半」、四十一番、いなり社参詣、山すそニ宮有、

龍光寺申候、是の廿五丁、山なし平地、

(頭注)「廿五丁」、四十二番、佛木寺、大日如来、是の二里半大山有、九州見ゆる、

(頭注)「二り半」、四十三番、明石寺(傍注)「あけいしし」、千手観音、是の大洲五里、山原野道、宇野町、糍屋喜兵衛殿一宿、十四日、野道、此辺大豆名物也、番所有、大洲城下、山城、天子有、是のすこう山へ十五里、内子村一宿、十五日、山道、川有、をくせの谷ト申候、此左に川の山へりを長々通り申候、くまの町田中屋八左衛門殿一宿、

へんろうに をくせの谷ト きゝつとふ

川のなかれと 山の原ミち

十六日、(頭注)「十五里半」、四十四番菅生山(傍注)「すごうさん」大宝寺、十一面観世音、少々山也、堂大キ也、其外宜敷事なり、是の二里廿五丁、山坂有、

(頭注)「二り廿五丁」四十五番、岩屋寺、不動明王、高祖大権現、白山大権現、現別山権現、此所ニ仙人の

せりわり石有、此上ニ大岩、此岩、くさりに取付登、上ニ又大岩有、廿之はしこ登、小宮有、此宮、くると廻り申候、下向仕ト大師堂、本堂、是の上ニ仙人、十六才のぞう有、此上ニ阿弥陀如来有、本堂は是迄、段々つたい登申候、此岩つゝきに天下り申候、そと門有、くま山迄戻り、東明神徳五郎殿一宿、十七日、山坂、川有、

(頭注)「六り」四十六番、浄瑠璃寺(傍注)「じゃうるりし」、薬師如来、野中、小寺也、宜敷候、是の上五丁(頭注)「五丁」四十七番、八坂寺、阿弥陀如来、小寺也、是の上一里、此間、村中に、ゑもん三郎はか所有、納経出申候、大川有、

(頭注)「一り」四十八番、西林寺、十一面観世音堂、野中有、宜敷小寺也、是の上廿五丁、野道、山すそ

(頭注)「廿五丁」四十九番、浄土寺、釈迦如来、是の上十五丁、野道、

(頭注)「十五丁」五十番、繁多寺(傍注)「はんたし」、薬師如来、是の上廿五丁、山すそ、

(頭注)「廿五丁」五十一番、石手寺(傍注)「いしてし」、薬師如来、大地也、堂とう宮宜敷、是の上どうごの湯、松山城下へハ参不申候、湯の町一宿、十八日、御城を左り見てくると廻、衛紋三郎、主し跡有、今ハやふ山ニ成、八幡宮山すそ通り

(頭注)「一り六丁」五十二番、大山寺、十一面観世音、是ハ楊明天皇作、本堂吉、ひたのたくミの作也、門前ニ宜敷宿御座候、是の上十八丁、山なし

(頭注)「十八丁」、五十三番、圓明寺、阿弥陀如来、小寺成、是の上堀江村源蔵殿舟ニのり、宮嶋へ参詣、十八日七ツ時出船仕候、十九日四ツ時おんとの瀬通り申候、此所明神様ト清もりト地ぬし所と申候事

清もりの ならみとめたる をんとのせ

いまの世迄も かたしほとこそ

七ツ半時、宮嶋着、参詣仕候、聞しにまさる景色、宮殿大き成事絵つのごとし、夜入出船、廿日五ツ時、をんとの瀬こし申候、八ツ時、三嶋大明神着申候、参詣仕候、是又大社にて宮殿見事なり、

(頭注)「五十三はんの上舟中廿三り、又三嶋へ十三り、五十四はんへ七り」五十五番札所、納経出申候、

まつ引て おんとのせきへ こゆる身は

みしまをさして のりの舟かな

廿一日舟中にとりう、廿二日出せん、

(頭注)「九り八丁」、五十(抹消)「五」四番圓明寺(傍注)「えんめいじ」不動明王

此近邊へ着申候、小寺にて野山成、是の上一里、野山道、平地森中、日本惣鎮守三嶋大明神、

(頭注)「一り」五十五番別宮大明神、南光坊、是の上野道十八丁

(頭注)「一り」五十六番大山寺地藏大菩薩、小寺成、是の上十八丁野道、

(頭注)「十八丁」五十七番八幡宮山王有、伊予一國の清水有、栄福寺、大師此所に、是の上廿丁野山になん所有、

(頭注)「廿丁」五十八番、作礼山(傍注)「されいさん」仙遊密寺、千手観世音、山寺にてなん所なり、是の上十五丁上に本堂大師堂有、高山なり、是の上五十丁野道なり、

(頭注)「一り」五十九番、國分寺、薬師如来、平地大寺成、是の上二丁奥に新田義助廟所有、是の上壱里半本村六軒、茶屋一宿、此所篠塚伊賀守城跡にて、今に太刀、長刀、武具之金物山中に有、廿三日、くわ村地藏堂有、此所にやかうち水有、是の上野道、生木の地藏有、是は楠木くちたる所さしかけ仕楠木之地蔵尊納有、是の上此比ふひやうき付申候

(頭注)「四り半百丁」六十番、横峯寺(傍注)「よこみねじ」大日如来、石鉄山別当なり、山坂百丁行戻り、大殿村に一宿(頭注)「百丁」、廿四日壱里

(頭注)「一り」六十一番、香園寺、大日如来、

(頭注)「八丁」六十二番、一ノ宮大明神、宝寿寺、

(頭注)「七丁」六十三番、吉祥寺、毘沙門天、

(頭注)「半り」六十四番、前神密寺、石鉄山大悲蔵王権現、里寺なり、是の上三角寺迄九里(傍注)「三角寺ニ」一宿、

(頭注)「九り」六十五番、三角寺、十一面観世音、大寺成、是の上登四十丁程、下り三十丁程、

(頭注)「五十八丁」奥之院、金光山仙龍寺、弘法大師堂吉、宜敷大寺成、谷そこに有、是の上山道四五里、此

間ニさし宿、重治郎と申候、此家女房あく女にて宿かし不申候、夜入なんき成事、庄屋戻れハ二十丁程有、山中にて戻りもならず、夜入山中壺人行申候、在所在候、又一里野道行ハ寺有、此寺にへんろう小屋有由被申候、是をたつねてやうへやう着申候、此所ニ一宿、廿七日

(頭注)「五里」六十六番、雲邊寺、千手観音、大師正作、是ハ山道、野道、山原道、戸坂部、讃岐寺ト申候、庵寺に廿七日夜ハ廿八日、廿九日、九月朔日、出立、是ハ山坂、なん所大ク

(頭注)「二り半」六拾七番、小松尾山大興寺、薬師如来、是ハ二里、野道、宮山海、見はらし

(頭注)「二り」六十八番、琴引八幡宮、宮殿宜敷候、山にて海見はらし、景色吉、下ニ里村有、濱有、別當、神恵院、是ハ二里

(頭注)「二丁」六十九番、観音寺、聖観世音、山にて堂立物吉、地面大成、是ハ一里

(頭注)「一り」七十番、本山寺(傍注)「もとやまてら」、馬頭観音、此所人家ニ一宿、二日、是ハ三里、野道行て山成、

(頭注)「三り」七十一番、弥谷寺(傍注)「いやたにじ」、大悲千手観音、宝物、しゃりとう、こんごんのれい、御経、天下り申候五釘、すゝ虫、まつむしの鈴有、本堂後ハ五りん成、岩屋内、大師父、あみた、母、せいしゆ、方丈に七種の宝物有、下向し百姓家一宿、三日、是ハ一里

(頭注)「一り」七十二番、曼荼羅寺(傍注)「まんだらじ」、大日如来、是ハ三丁おくに

(頭注)「三丁」七十三番、出釈迦寺、釈迦如来、是ハ三十丁、

(頭注)「三十丁」七十四番、甲山寺(傍注)「こうさんじ」、薬師如来、是ハ十丁

(頭注)「十丁」七十五番、屏風浦善通寺、堂司、薬師如来、堂とう其他立物宜敷、大地にて大寺也、大師誕生之地也、是ハ

(頭注)「一り半」金毘羅大権現参申候、野道川へり、鳥井ハ町家成、一宿、四日、是ハ本町之間やける、本町やとや町にて段々登り、坊有、段々登石段有、石とうろ大き事、又石段長キ事、御社吉、くるり石之玉垣、其外宮殿堂とう美礼なる事云にをよはず、是ハ宿ニ下向し又一宿、五日、是ハ野道、

(頭注)「一り」、七十六番、金倉寺(傍注)「こんぞうし」、薬師如来、小寺小地成、是ハ一里、

(頭注)「一り」、七十七番、道隆寺(傍注)「とうりうし」、薬師如来、目出度、廻り納申候、

(頭注)「丸亀へ一里」是ハ丸亀江一里、嶋屋武右衛門殿、五日夕方着、一宿、六日、七ツ時出舟、七日、八日、九日明方、大坂西国橋着、是ハ塩屋権七殿朝着、九日夜舟のり、十日朝伏見着、是ハ京江、九ツ時ニ着仕申候、以上

丑ノ九月十日、伊勢屋吉兵衛事、心應道習法子

【参考文献】

塚本明「江戸時代の巡礼たちの諸相—熊野古道沿いの資料から—」(愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会編『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』(愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014年、<http://henro.ll.ehime-u.ac.jp/post-236/>)

塚本明・近藤浩二・胡光「史料編 巡礼と「道中日記」の諸相」(同上)

高嶋賢二・岡本佑弥・胡光「伊方町で発見された愛媛県内最古の遍路日記」(『四国遍路と世界の巡礼』4、2019年)

胡光「小豆島伝来文書から見た巡礼の諸相」(橋詰茂編『戦国・近世初期西と東の地域社会』岩田書院、2019年)

愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020年

【附記】

本史料の解説は、愛媛大学法文学部日本史研究室の学生、平井清貴、佐々木紫帆、水松啓太、東雲真弥嘉、合六梨夏、小泉柚乃が行い、胡が校訂した。本史料発見の情報は、科研研究分担者・守田逸人氏(香川大学)から得た。